

鹿角市文化財調査資料98

特別史跡  
大湯環状列石(Ⅱ)

2010年3月

鹿角市教育委員会

# 例 言

1. 本報告書は、史跡の解明と保存・環境整備のための資料収集を目的に実施した特別史跡大湯環状列石(周辺遺跡)第1次～25次発掘調査において出土した遺物をまとめた『特別史跡大湯環状列石(Ⅱ)』である。

2. その内容は、遺物の概要、実測図、観察表、写真によって構成されている。これまでに出土した遺物の量が膨大で、しかもデータの見直しを必要とした。そのデータの再構築に手間取ったことから、本来、本報告書に記載すべきである土器編年を基にした遺構並びに史跡の変遷については、刊行を予定している『特別史跡大湯環状列石(Ⅲ)』に掲載することにした。

なお、これまでの発掘調査の成果については年度毎に報告書を刊行しているが、これまでに公表したものと見解が異なる場合は、本報告書の記述が優先するものとする。

遺構編については『特別史跡大湯環状列石(Ⅰ)』として、平成17年3月に刊行している。

3. 本報告書の内容については、鹿角市教育委員会生涯学習課長 秋元信夫、同主幹 藤井安正、同主任 三浦貴子が協議し、それをもとに藤井安正、三浦貴子が執筆した。文責は各章・項の末尾に記した。

4. 遺物実測図やその他の図面の縮尺については各々に示した。また、写真図版については任意の縮尺とした。

5. 本報告書に使用した地形図は、国土交通省国土地理院発行の「毛馬内・花輪(縮尺1/25,000)」を使用した。

6. 本報告書作成の体制は次のとおりである。

事業主体者	鹿角市教育委員会
執筆・編集	鹿角市教育委員会 生涯学習課
体制	教育長 吉成博雄
	教育部長 青山武夫
	教育次長 岩根 務
	生涯学習課長 秋元信夫
	生涯学習課政策監 阿部安男
主 幹	藤井安正
主 査	海沼雄一
主 査	佐藤千絵子
社会教育主事	黒澤香澄
主 任	三浦貴子
整理作業員	工藤悦子、大槻 愛

7. 発掘調査、史跡環境整備並びに報告書(Ⅱ)の作成にあたって下記の方々のご指導・ご助言をいただきました。記して感謝の意を表します。(敬称略・順不動・平成21年度時点)

・特別史跡大湯環状列石環境整備事業検討委員会

小林達雄（國學院大學名誉教授）

富樫泰時（元 秋田県立博物館長）

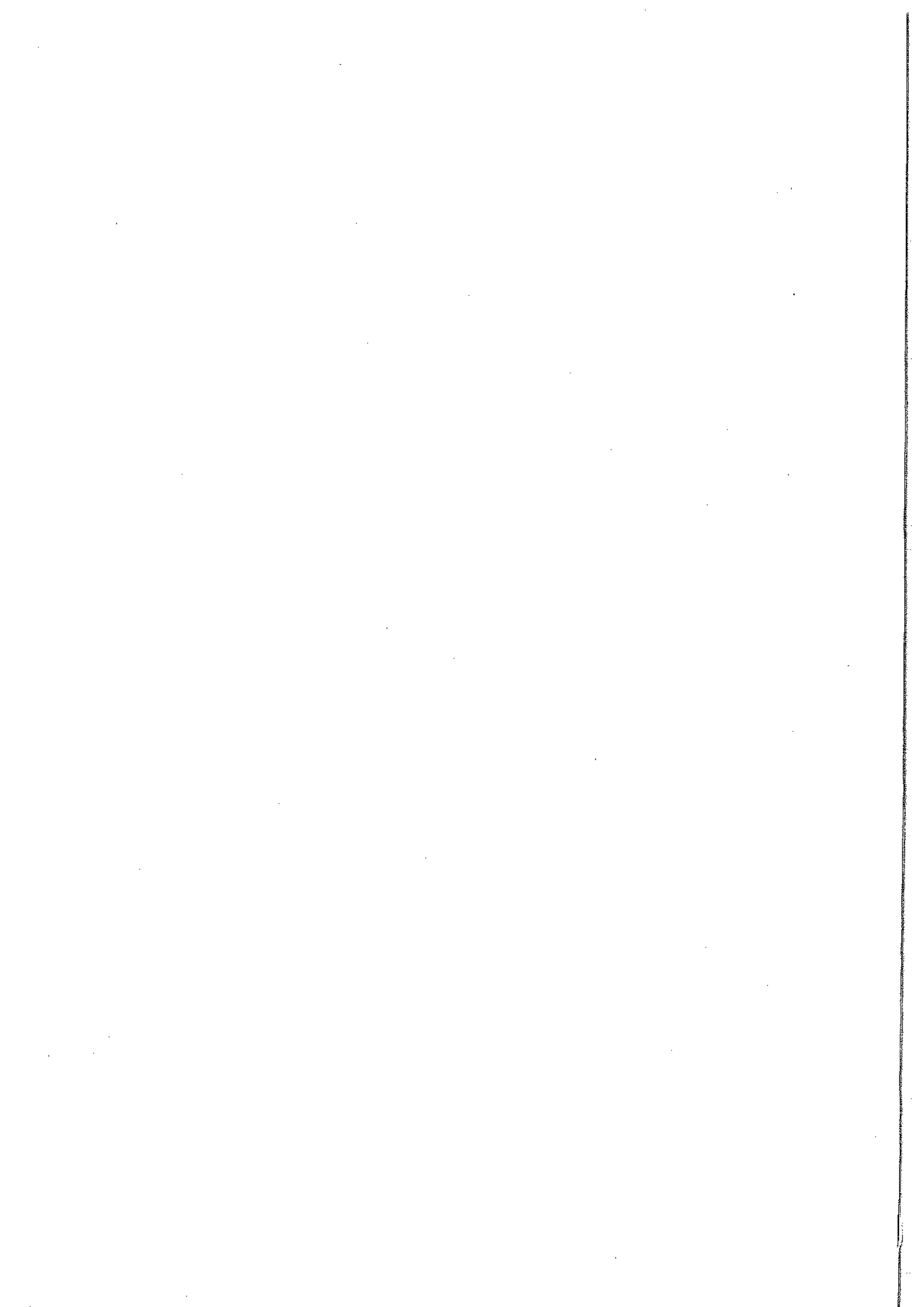
沢田正昭（国士舘大学教授）

熊谷常正（盛岡大学教授）

大里勝蔵（鹿角市文化財保護審議委員）

8. 本文中では下記の記号、スクリーントーンを使用した。なお、スクリーントーンについては凡例を明示した。

記号	名称	記号	名称	記号	名称
SB	掘立柱建物跡	SI	竪穴住居跡	SK	土坑
SK(F)	フラスコ状土坑	SK(T)	Tピット	ST	竪穴遺構
SX(F)	焼土遺構	SX(O)	屋外炉	SX(U)	埋設土器遺構
SX(S)	環状配石遺構・方形配石遺構・配石遺構・立石遺構・集石遺構				
SA	柱列	Pit	柱穴状ピット		



# 本文目次

序	
例言	
本文目次	
図版・写真図版・表目次	
第I章 遺跡の環境	1
1 遺跡の位置と環境	
2 市内の縄文遺跡	
第II章 遺跡の調査と保存の歴史	7
1 遺跡の発見と調査の歴史	
2 遺跡の保存、史跡指定と公有化事業	
3 遺跡の活用と環境整備事業	
4 世界文化遺産登録を目指して	
第III章 遺跡の概要	18
1 大湯環状列石について	
2 検出遺構	
3 遺跡の基本層序	
第IV章 出土遺物	32
1 縄文土器	
1) 出土土器の分類	
2) 土器分布	
2 石器	
3 土製品	
4 石製品	
大湯環状列石関連文献目録	246
写真図版	251
報告書抄録	330

# 図版・写真図版・表目次

## 【図版目次】

第1図	大湯環状列石の位置	1	第40図	土器実測図 (28)	69
第2図	市内の主な遺跡	3	第41図	土器実測図 (29)	70
第3図	調査区位置図	20	第42図	土器実測図 (30)	71
第4図	万座環状列石実測図	22	第43図	土器実測図 (31)	72
第5図	野中堂環状列石実測図	24	第44図	土器実測図 (32)	73
第6図	遺構配置図 (1)	25	第45図	土器実測図 (33)	74
第7図	遺構配置図 (2)	26	第46図	土器実測図 (34)	75
第8図	遺構配置図 (3)	27	第47図	土器実測図 (35)	76
第9図	遺構配置図 (4)	28	第48図	土器実測図 (36)	77
第10図	遺構配置図 (5)	29	第49図	土器実測図 (37)	78
第11図	遺跡の基本層序	30	第50図	土器実測図 (38)	79
第12図	各調査区の基本層序	31	第51図	土器実測図 (39)	80
第13図	土器実測図 (1)	42	第52図	土器実測図 (40)	81
第14図	土器実測図 (2)	43	第53図	土器実測図 (41)	82
第15図	土器実測図 (3)	44	第54図	土器実測図 (42)	83
第16図	土器実測図 (4)	45	第55図	土器実測図 (43)	84
第17図	土器実測図 (5)	46	第56図	土器実測図 (44)	85
第18図	土器実測図 (6)	47	第57図	土器実測図 (45)	86
第19図	土器実測図 (7)	48	第58図	土器実測図 (46)	87
第20図	土器実測図 (8)	49	第59図	土器実測図 (47)	88
第21図	土器実測図 (9)	50	第60図	土器実測図 (48)	89
第22図	土器実測図 (10)	51	第61図	土器実測図 (49)	90
第23図	土器実測図 (11)	52	第62図	土器実測図 (50)	91
第24図	土器実測図 (12)	53	第63図	土器実測図 (51)	92
第25図	土器実測図 (13)	54	第64図	土器実測図 (52)	93
第26図	土器実測図 (14)	55	第65図	土器実測図 (53)	94
第27図	土器実測図 (15)	56	第66図	土器実測図 (54)	95
第28図	土器実測図 (16)	57	第67図	土器実測図 (55)	96
第29図	土器実測図 (17)	58	第68図	土器実測図 (56)	97
第30図	土器実測図 (18)	59	第69図	石器実測図 (16)	98
第31図	土器実測図 (19)	60	第70図	石器実測図 (17)	99
第32図	土器実測図 (20)	61	第71図	土器実測図 (59)	100
第33図	土器実測図 (21)	62	第72図	土器実測図 (60)	101
第34図	土器実測図 (22)	63	第73図	土器実測図 (61)	102
第35図	土器実測図 (23)	64	第74図	土器実測図 (62)	103
第36図	土器実測図 (24)	65	第75図	土器実測図 (63)	104
第37図	土器実測図 (25)	66	第76図	土器実測図 (64)	105
第38図	土器実測図 (26)	67	第77図	土器拓影図 (1)	106
第39図	土器実測図 (27)	68	第78図	土器拓影図 (2)	107

第79図	土器拓影図 (3)	108	第121図	土製品実測図	土偶 (5)	180	
第80図	土器分布 (1)	121	第122図	土製品実測図	土偶 (6)	181	
第81図	土器分布 (2)	122	第123図	土製品実測図	土偶 (7)	182	
第82図	環状列石周辺遺構分布	123	第124図	土製品実測図	土偶 (8)	183	
第83図	土器分布 (3)	126	第125図	土製品実測図	土偶 (9)	184	
第84図	復元土器分布	127	第126図	土製品実測図	土偶 (10)	185	
第85図	剥片石器分布図 (1)	129	第127図	土製品実測図	土偶 (11)	186	
第86図	剥片石器分布図 (2)	130	第128図	土製品実測図	土版・足形土製品 ・スタンプ状土製品	187	
第87図	剥片石器分布図 (3)	131	第129図	土製品実測図	耳飾り・有孔土製品	188	
第88図	礫石器分布図 (1)	132	第130図	土製品実測図	有孔土製品 (2)	189	
第89図	礫石器分布図 (2)	133	第131図	土製品実測図	有孔土製品 (3)	190	
第90図	礫石器分布図 (3)	134	第132図	土製品実測図	環状土製品	191	
第91図	石器実測図	石鏃 (1)	138	第133図	土製品実測図	鐔形土製品 (1)	192
第92図	石器実測図	石鏃 (2)	139	第134図	土製品実測図	鐔形土製品 (2)	193
第93図	石器実測図	石鏃 (3)	140	第135図	土製品実測図	鐔形土製品 (3)	194
第94図	石器実測図	石鏃 (4)	141	第136図	土製品実測図	鐔形土製品 (4)	195
第95図	石器実測図	石錐	142	第137図	土製品実測図	鐔形土製品 (5)	196
第96図	石器実測図	石匙 (1)	143	第138図	土製品実測図	キノコ形土製品 (1)	197
第97図	石器実測図	石匙 (2)	144	第139図	土製品実測図	キノコ形土製品 (2)	198
第98図	石器実測図	石匙 (3)	145	第140図	土製品実測図	動物形土製品・土錘	199
第99図	石器実測図	石篋	146	第141図	土製品実測図	土器片利用土製品 (1)	200
第100図	石器実測図	搔器 (1)	147	第142図	土製品実測図	土器片利用土製品 (2)	201
第101図	石器実測図	搔器 (2)	148	第143図	土製品実測図	土器片利用土製品・三脚 土製品・皿状土製品	202
第102図	石器実測図	搔器 (3)	149	第144図	石製品実測図	岩版・石刀	206
第103図	石器実測図	三脚石器・打製石斧	150	第145図	石製品実測図	石刀 (2)	207
第104図	石器実測図	磨製石斧 (1)	151	第146図	石製品実測図	石刀 (3)	208
第105図	石器実測図	磨製石斧 (2)	152	第147図	石製品実測図	石棒	209
第106図	石器実測図	石錘	153	第148図	石製品実測図	石冠	210
第107図	石器実測図	敲石	154	第149図	石製品実測図	有孔石製品・軽石製石製品	211
第108図	石器実測図	凹石 (1)	155	第150図	石製品実測図	軽石製石製品 (2)	212
第109図	石器実測図	凹石 (2)	156	第151図	石製品実測図	軽石製石製品 (3)	213
第110図	石器実測図	磨石	157	第152図	石製品実測図	軽石製石製品 (4)	214
第111図	石器実測図	石皿 (1)	158	第153図	石製品実測図	軽石製石製品 (5)	215
第112図	石器実測図	石皿 (2)	159	第154図	石製品実測図	円盤状石製品 (1)	216
第113図	石器実測図	砥石	160	第155図	石製品実測図	円盤状石製品 (2)	217
第114図	土製品・石製品分布図 (1)	168	第156図	石製品実測図	円盤状石製品・三角形岩版	218	
第115図	土製品・石製品分布図 (2)	169	第157図	石製品実測図	球状石製品	219	
第116図	土製品・石製品分布図 (3)	170	第158図	石製品実測図	碗状石製品・男根状石 製品・イモガイ石製品	220	
第117図	土製品実測図	土偶 (1)	176	第159図	石製品実測図	線刻石・棒状石製品	221
第118図	土製品実測図	土偶 (2)	177				
第119図	土製品実測図	土偶 (3)	178				
第120図	土製品実測図	土偶 (4)	179				

【写真図版目次】

PL 1	史跡の現況	251	PL 42	出土土器 (37)	292
PL 2	万座・野中堂環状列石	252	PL 43	出土土器 (38)	293
PL 3	象状列石	253	PL 44	出土土器 (39)	294
PL 4	史跡の整備・活用	254	PL 45	出土土器 (40)	295
PL 5	史跡出土遺物	255	PL 46	石器 石鏃 (1)	296
PL 6	出土土器 (1)	256	PL 47	石器 石鏃 (2)	297
PL 7	出土土器 (2)	257	PL 48	石器 石錐・石匙	298
PL 8	出土土器 (3)	258	PL 49	石器 石匙 (2)	299
PL 9	出土土器 (4)	259	PL 50	石器 石筥・掻器	300
PL 10	出土土器 (5)	260	PL 51	石器 掻器 (2)	301
PL 11	出土土器 (6)	261	PL 52	石器 三脚石器・石斧	302
PL 12	出土土器 (7)	262	PL 53	石器 石斧・石錘	303
PL 13	出土土器 (8)	263	PL 54	石器 敲石・磨石	304
PL 14	出土土器 (9)	264	PL 55	石器 凹石	305
PL 15	出土土器 (10)	265	PL 56	石器 石皿	306
PL 16	出土土器 (11)	266	PL 57	石器 石皿・砥石	307
PL 17	出土土器 (12)	267	PL 58	土製品 土偶 (1)	308
PL 18	出土土器 (13)	268	PL 59	土製品 土偶 (2)	309
PL 19	出土土器 (14)	269	PL 60	土製品 土偶 (3)	310
PL 20	出土土器 (15)	270	PL 61	土製品 土偶 (4)	311
PL 21	出土土器 (16)	271	PL 62	土製品 土偶 (5)	312
PL 22	出土土器 (17)	272	PL 63	土製品 土偶・土版・足形土製品 ・スタンプ状土製品	313
PL 23	出土土器 (18)	273	PL 64	土製品 耳飾り・有孔土製品	314
PL 24	出土土器 (19)	274	PL 65	土製品 有孔土製品 (2)	315
PL 25	出土土器 (20)	275	PL 66	土製品 環状土製品・鐔形土製品	316
PL 26	出土土器 (21)	276	PL 67	土製品 鐔形土製品 (2)	317
PL 27	出土土器 (22)	277	PL 68	土製品 鐔形土製品 (3)	318
PL 28	出土土器 (23)	278	PL 69	土製品 キノコ形土製品	319
PL 29	出土土器 (24)	279	PL 70	土製品 土器片利用土製品	320
PL 30	出土土器 (25)	280	PL 71	土製品 土器片利用土製品 ・動物形土製品・土鏃	321
PL 31	出土土器 (26)	281	PL 72	石製品 石刀 (1)	322
PL 32	出土土器 (27)	282	PL 73	石製品 石刀・石棒	323
PL 33	出土土器 (28)	283	PL 74	石製品 石冠	324
PL 34	出土土器 (29)	284	PL 75	石製品 有孔石製品・軽石製石製品	325
PL 35	出土土器 (30)	285	PL 76	石製品 軽石製石製品 (2)	326
PL 36	出土土器 (31)	286	PL 77	石製品 軽石製石製品・円盤状石製品	327
PL 37	出土土器 (32)	287	PL 78	石製品 円盤状石製品・三角形岩版	328
PL 38	出土土器 (33)	288	PL 79	石製品 球状石製品・碗状石製品・男根 状石製品・イモガイ状石製品	329
PL 39	出土土器 (34)	289			
PL 40	出土土器 (35)	290			
PL 41	出土土器 (36)	291			



【表 目 次】

第1表	大湯環状列石周辺の遺跡……………	4	第31表	石器観察表(1)……………	161
第2表	大湯環状列石の調査と保存の歴史……………	9	第32表	石器観察表(2)……………	162
第3表	発掘調査の経過と成果……………	10	第33表	石器観察表(3)……………	163
第4表	環境整備の経過……………	15	第34表	石器観察表(4)……………	164
第5表	北海道・北東北を中心とした 縄文遺跡群……………	16	第35表	石器観察表(5)……………	165
第6表	各地区の遺構分布数……………	24	第36表	土製品観察表(1)……………	203
第7表	出土土器の分類……………	41	第37表	土製品観察表(2)……………	204
第8表	石器観察表(1)……………	109	第38表	土製品観察表(3)……………	205
第9表	石器観察表(2)……………	109	第39表	石製品観察表(1)……………	222
第10表	石器観察表(3)……………	110	第40表	石製品観察表(2)……………	223
第11表	石器観察表(4)……………	110	第41表	石器各グリッド出土内訳一覧表(1)…	224
第12表	石器観察表(5)……………	111	第42表	石器各グリッド出土内訳一覧表(2)…	225
第13表	石器観察表(6)……………	111	第43表	石器各グリッド出土内訳一覧表(3)…	226
第14表	石器観察表(7)……………	112	第44表	石器各グリッド出土内訳一覧表(4)…	227
第15表	石器観察表(8)……………	112	第45表	石器各グリッド出土内訳一覧表(5)…	228
第16表	石器観察表(9)……………	113	第46表	石器各グリッド出土内訳一覧表(6)…	229
第17表	石器観察表(10)……………	113	第47表	石器各グリッド出土内訳一覧表(7)…	230
第18表	石器観察表(11)……………	114	第48表	石器各グリッド出土内訳一覧表(8)…	231
第19表	石器観察表(12)……………	114	第49表	石器各グリッド出土内訳一覧表(9)…	232
第20表	石器観察表(13)……………	115	第50表	石器各グリッド出土内訳一覧表(10)…	233
第21表	石器観察表(14)……………	115	第51表	石器各グリッド出土内訳一覧表(11)…	234
第22表	石器観察表(15)……………	116	第52表	石器各グリッド出土内訳一覧表(12)…	235
第23表	石器観察表(16)……………	116	第53表	土製品・石製品各グリッド出土内訳一覧表(1)…	236
第24表	石器観察表(17)……………	117	第54表	土製品・石製品各グリッド出土内訳一覧表(2)…	237
第25表	石器観察表(18)……………	117	第55表	土製品・石製品各グリッド出土内訳一覧表(3)…	238
第26表	石器観察表(19)……………	118	第56表	土製品・石製品各グリッド出土内訳一覧表(4)…	239
第27表	石器観察表(20)……………	118	第57表	土製品・石製品各グリッド出土内訳一覧表(5)…	240
第28表	石器観察表(21)……………	119	第58表	土製品・石製品各グリッド出土内訳一覧表(6)…	241
第29表	石器観察表(22)……………	119	第59表	土製品・石製品各グリッド出土内訳一覧表(7)…	242
第30表	石器観察表(23)……………	120	第60表	土製品・石製品各グリッド出土内訳一覧表(8)…	243
			第61表	土製品・石製品各グリッド出土内訳一覧表(9)…	244

# 第 I 章 遺跡の環境

## 1 遺跡の位置と環境

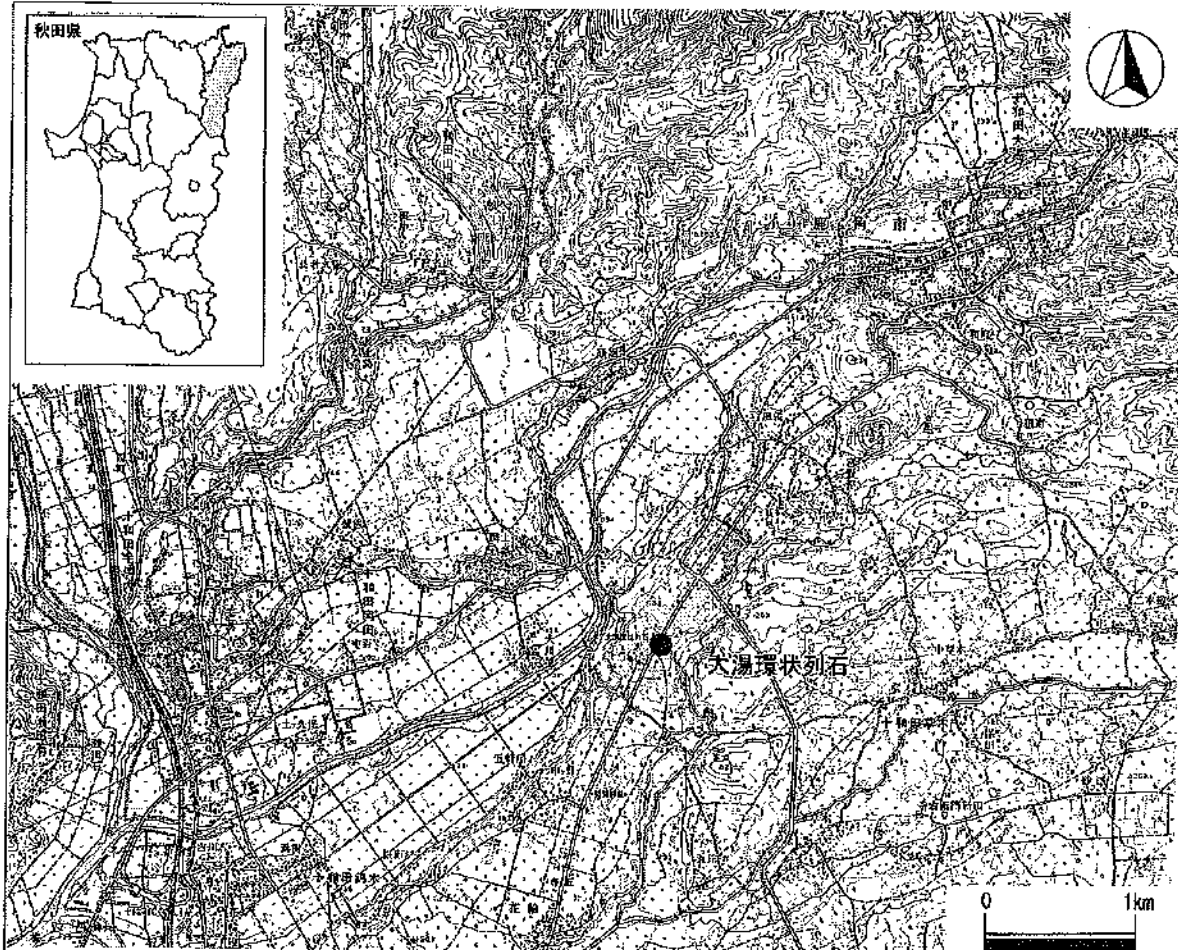
石川啄木によって「青垣山を繞らせる天さかる鹿角の國」と詠まれた鹿角市は、北東北地方の中心に位置する。秋田県・岩手県・青森県にまたがる中岳（標高1,024m）周辺を水源とする米代川は、岩手県八幡平市田山地区で清流を集め、次第に水量を増しながら鹿角盆地を貫流する。八幡平地区で熊沢川を、十和田地区で大湯川と小坂川を合流し、川幅を広げ大館盆地・鷹巣盆地・能代平野を貫けて日本海に注いでいる。

鹿角盆地を懐に抱くように、東側に壮年期（標高1,000m前後）の山並みが連なる奥羽山脈、西側には森吉山を秀峰とする山地（高森山地）がある。史跡の中央に立つとこの山並みは程よい距離にあり、環状列石を中心に野原・山並みと連なり天空へと繋がっていく。

鹿角盆地の北側には、十和田（湖）火山を噴出源とするシラス台地が広がっている。これらの台地は米代川の支流である河川の浸食によって形成された舌状台地や河岸段丘で、この台地上には縄文時代から近世の各時代・時期に営まれた416カ所もの遺跡が分布している。

特別史跡大湯環状列石は、大湯川の左岸に形成された標高180m程の「中港台地」の中程に位置し、J R花輪線・十和田南駅の東側3.2km、北緯40度16分20秒、東経140度48分49秒に位置する。

台地上部の平坦部は集落地・畑地・果樹園として使用されているが、斜面に足を踏み入れると落葉広葉樹が広がり、ニホンカモシカやウサギ、リス、キツネなどの格好の棲みかとなっている。



第 1 図 大湯環状列石の位置

史跡は平成10年度から環境整備が進み、万座・野中堂環状列石を中心とする地域は環状列石を特徴づける遺構が復元されたほか、列石が構築された当時の地形や植生が復元され、縄文の雰囲気を感じ出されている。また、史跡の北側隣接地には「大湯ストーンサークル館」が建設され、史跡のガイドや土器・ペンダント作りなどの体験学習のほか環状列石や配石遺構にこだわった講演や講座が行われている。

## 2 市内の縄文遺跡

鹿角市内には416カ所の縄文時代から近世に営まれた遺跡が所在する。これらの遺跡は舌状台地や河岸段丘に所在し、特に奥羽山脈の裾野に形成された台地に密集している。

### 【縄文時代】

草創期の遺跡としては飛鳥平遺跡(40)がある。東北縦貫自動車道建設に先立って調査された遺跡で爪形文が施文された土器片4点が出土した。

早期の遺跡としては物見坂Ⅲ遺跡(28・29)がある。平成14年に国道改良工事に伴って秋田県埋蔵文化財センターが、平成16年には農道改良工事に伴って鹿角市教育委員会が発掘調査を行っており、貝殻文や貝殻沈線文系土器とともに同時期の竪穴住居跡1棟、土坑38基が検出され、市内で始めて早期集落の様子が判明した。

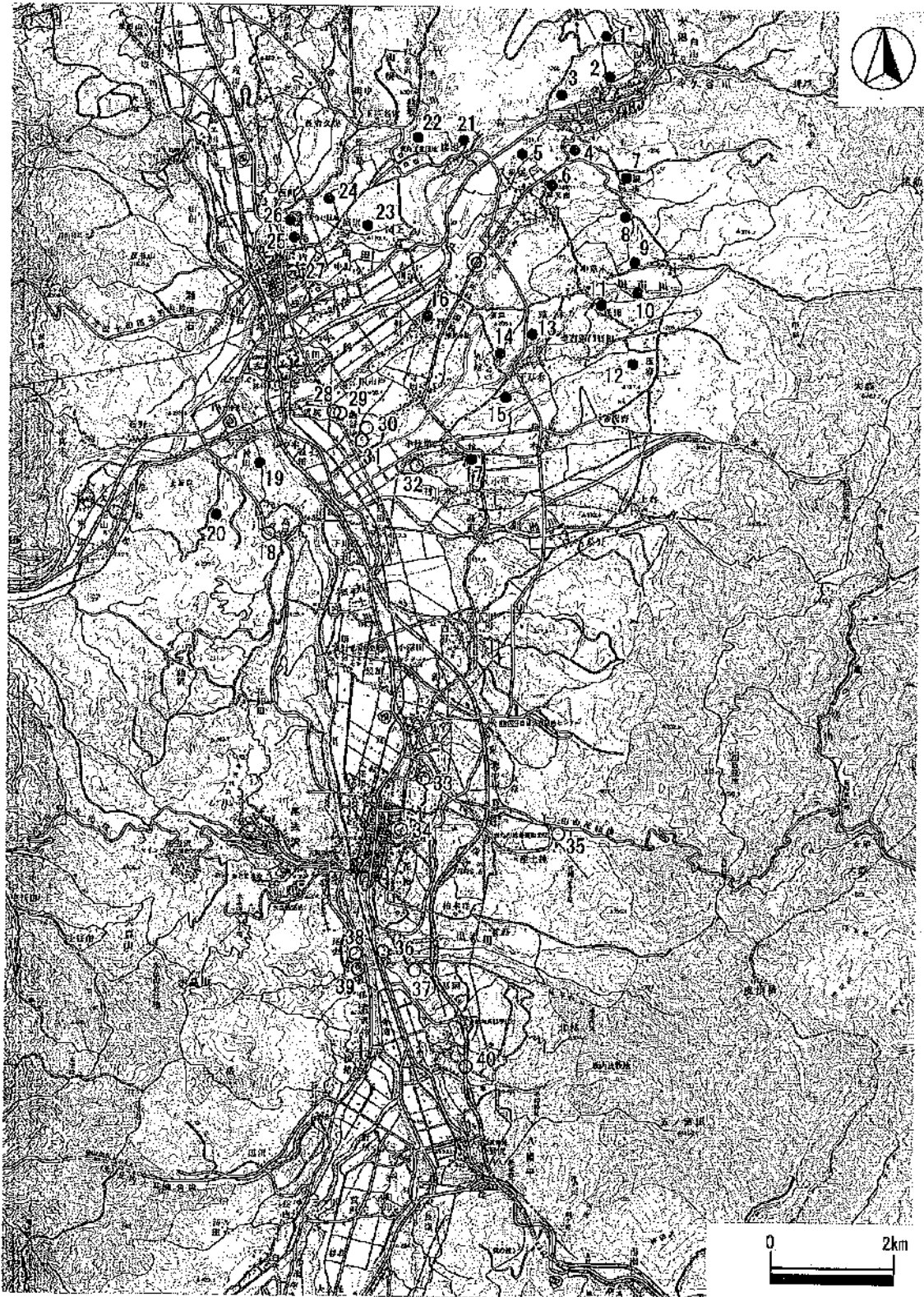
前期の遺跡として清水向遺跡(37)がある。昭和29年に武藤鉄城氏によって調査され、竪穴住居跡2棟が検出された。円筒下層式土器とともに大木系土器が出土したことで知られている。出土した土器の一部は國學院大學博物館に収蔵・展示されているが、地元に残された土器類は所蔵家屋の火災とともに焼失した。

中期の遺跡としては天戸森遺跡(33)がある。花輪第一中学校建設に伴い調査されたもので、大規模集落の例として数多くの論文などに取り上げられている。竪穴住居跡140棟、土坑103基、配石遺構21基などが検出された。その結果、竪穴住居跡は数棟で構成されたムラが幾度も建て替えられ、長年に亘って営まれたこと、台地北側斜面には配石遺構が弧状に配置され、それは環状列石の萌芽を感じさせるものであった。また、遺構とともに出土した土器は東北部の大木式土器、東北北部の円筒上層式土器や大木式土器の影響を受けた榎林式、中の平Ⅲ式土器が出土し、中期後半の集落の変遷や土器編年の研究に欠かすことができない遺跡となっている。

後期の遺跡として大湯環状列石、高屋館跡(18)で検出された環状列石がある。高屋環状列石は平成元年に農免農道建設に先立って秋田県埋蔵文化財センターが調査を実施した。農道建設とともに消失したが、その構造は大湯環状列石と同様で、環状列石の外周に26棟の掘立柱建物跡が規則的に配置されたものであった。平成20年には市教育委員会が市内遺跡詳細分布調査の一環として残存部の追調査を行っている。杉林として使用されているためか配石遺構に使用された石の移動が一部に見られるが、保存状況も良く、直径が約33mを測るものであることが判明した。また、後期中葉の遺跡の発見例もある。平成9年に鹿角市花輪スキー場を会場に行なわれた冬季国体に関連して調査された赤坂A遺跡(35)からは竪穴住居跡6棟が検出されている。

晩期の遺跡としては玉内遺跡(36)、東在家遺跡(39)がある。この二つの遺跡は米代川を挟んで位置している。玉内遺跡は昭和43年、阿部義平氏によって「考古学雑誌第54巻第1号」で紹介され、

その後、国道改良工事に伴って昭和62年に秋田県埋蔵文化財センターが調査を行なっている。その結果、配石遺構4基、土坑墓11基、土器棺墓7基のほか多量の晩期前葉の土器が出土した。なお、阿部氏によって紹介された配石遺構は現在も民家の庭に大事に保存されている。東在家遺跡は東北縦貫自動車道のルート選定時に秋田県立十和田高等学校社会科同好会によって試掘調査され、竪穴住居跡2棟と復元土器28個が出土した。遺跡が所在する土地の所有者も耕作時に出土した土器や石器を収集し、その一部は鹿角市指定文化財(考古)となっている。



第2図 市内の主な遺跡

第1表 大湯環状列石周辺の遺跡

No.	遺跡名	所在地	概要・既存報告書
1	黒森山麓	鹿角市十和田大湯字上内野	『黒森山麓縄文壜穴群』十和田町教育委員会 1971年
2	下内野Ⅱ	鹿角市十和田大湯字下内野	『下内野Ⅱ遺跡』鹿角市教育委員会 2000年
3	下内野Ⅲ	鹿角市十和田大湯字下内野	石英閃緑玢岩の集積あり
4	小清水	鹿角市十和田大湯字小清水	『遺跡詳細分布調査報告書』鹿角市教育委員会2008年
5	上屋布Ⅱ	鹿角市十和田大湯字上屋布	『遺跡詳細分布調査報告書』鹿角市教育委員会2008年
6	堤尻Ⅰ・Ⅱ	鹿角市十和田大湯字堤尻	平成21年度に詳細分布調査を実施
7	和町Ⅰ	鹿角市十和田大湯字和町	遺物包含地
8	根市	鹿角市十和田大湯字根市	遺物包含地
9	松舟	鹿角市十和田草木字松舟	『遺跡詳細分布調査報告書』鹿角市教育委員会2005年
10	崩原	鹿角市十和田草木字崩原	遺物包含地
11	保田Ⅱ	鹿角市十和田草木字保田	遺物包含地
12	高間館	鹿角市花輪字菩提野	遺物包含地
13	草木A	鹿角市十和田草木字小坂	『鹿角市・小坂町大規模農道発掘調査報告書』秋田県教育委員会1973年
14	丸館Ⅳ	鹿角市十和田草木字丸館	遺物包含地
15	土木	鹿角市花輪字土木	遺物包含地
16	申ヶ野Ⅴ	鹿角市十和田錦木字申ヶ野	遺物包含地、平成21年度分布調査を実施
17	平元館	鹿角市花輪源田平	遺物包含地
18	高屋館跡	鹿角市花輪字館ノ沢他	『西山地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ－高屋館跡－』1990年
19	板橋Ⅱ	鹿角市十和田末広字板橋	遺物包含地
20	上ノ野Ⅳ	鹿角市十和田末広字上野	遺物包含地
21	吹越Ⅱ	鹿角市十和田山根字吹越	遺物包含地
22	下砂沢	鹿角市十和田山根字上ノ平	『下砂沢遺跡発掘調査報告書』鹿角市教育委員会 1990年
23	竹林	鹿角市十和田岡田字竹林	遺物包含地
24	湯坂Ⅱ	鹿角市十和田毛馬内字湯坂	遺物包含地砂利採取により消失
25	寺ノ上Ⅲ	鹿角市十和田毛馬内字寺ノ上	遺物包含地
26	寺ノ上Ⅰ	鹿角市十和田毛馬内字寺ノ上	遺物包含地
27	柏崎館跡	鹿角市十和田毛馬内字柏崎他	『柏崎館跡発掘調査報告書』鹿角市教育委員会1989年
28	物見坂Ⅲ	鹿角市十和田錦木字物見坂	『物見坂Ⅲ遺跡－国道282号国道道路改築事業埋蔵文化財発掘調査報告書』秋田県教育委員会2003年 平成16年鹿角市教育委員会調査2005年報告書刊行

※ 鹿角市文化財調査資料39 秋田県鹿角市遺跡詳細分布調査報告書 1990年刊行より

### 【弥生時代】

鹿角市内からは弥生時代の遺構は発見されておらず、土器のみが出土する程度である。土器は安保彰氏によって設定された小阪X式に相当するもので、後期に位置付けられるものである。秋田県北部では大館市諏訪台C遺跡が前期の集落として知られており、竪穴住居跡6棟が検出されている。そのうち1棟は焼失家屋で深鉢形土器・高坏などが出土している。

### 【奈良・平安】

律令政治の東国浸透とともに文化も同時に入り込む。八幡平小豆沢に鎮座する大日靈貴神社（養老2年・西暦718年に再建）に伝わる「大日堂舞楽」は尊像の開眼供養が行われた際、都から下向した楽人によって伝えられたものと言われている。昭和51年に国重要無形民俗文化財に指定され、平成21年10月に世界無形文化遺産に登録された。

「上津野（かつの）」が律令政治の影響下に入るのは奈良時代後半で、上津野が歴史上に登場するのは『日本三代実録』である。元慶2年（878年）3月15日、帰順した蝦夷が秋田城やその周辺の民家を襲撃したことを発端とした「元慶の乱」では、秋田城平定を目的に小野春風が陸奥鎮守將軍に任命され出兵している。この途中「上津野村」に入り夷俘を説得し、その後秋田營に入り鎮静させた。このとき利用された街道は「陸奥路」と言われ、その道筋は中世・近世に「鹿角（南部）街道」として整備されていったものと考えられる。また、同年7月10日の条に「秋田城下賦地」の記載がある。それには火内（大館市比内周辺）、野代（能代市）、河北（旧琴丘町・山本町周辺）などとともに「上津野」も夷賦の村として書き記されている。

奈良時代の遺跡は鹿角市北部に集中しており、物見坂Ⅲ遺跡(29)、小枝指館跡(32)がこれにあたる。頸部に段を有する長胴の土師器甕、丸底の坏が出土しているほか、物見坂Ⅲ遺跡からは市内で初めて土師器高坏2点出土した。

平安時代に入ると遺跡の数が爆発的に多くなり、全市的に分布するようになる。平安時代の初めに錦木地区や尾去地区に「円墳（終末期古墳）」が造られ、枯草坂古墳群(31)や物見坂Ⅰ遺跡(30)、三光塚古墳(38)などである。枯草坂古墳の発見は古く明治34年に遡る。大正元年に秋田県史編纂主任であった長井行氏によって調査が行われ「積石塚」と報告されている。この枯草坂古墳の後方台地上に位置する物見坂Ⅰ遺跡を平成16年・17年に市教育委員会が発掘調査を行ない、円墳4基とともに藤手刀2振、鎧帯金具が発見された。『鹿角市史Ⅰ巻』に泉森出土と紹介されている「鉄剣」がある。出土地といわれている泉森は枯草坂と物見坂に挟まれた地域で、泉森は「蝦夷森」がなまり泉森に変化したものと考えられる。なお、三光塚古墳は鹿角市内で唯一その姿を残すものである。

### 【中世】

この時期の遺跡としては館跡がある。近世中頃のものといわれる『鹿角由来集』には「鹿角四十二館」が書き上げられている。館跡は舌状台地の先端を空堀で区切り多郭連続式の形態が特徴となっている。承久の乱や奥州征伐後、功績のあった関東武士団に恩賞として鹿角の土地が与えられ、彼ら又はその家臣がこの地を支配するために築いた山城である。小枝指館跡(32)は昭和30年に東京大学東洋文化研究所が、平成3年に市教育委員会が調査を行い、その存続期間や築城方法、天正年間に豊臣秀吉によって行われた「館潰し」の状況が確認された。なお、『館址』には館跡が並ぶ様

子を「このような舌状台地が、鹿角盆地を貫流する米代川右岸には数多く発達して、ほぼ南北に並列しており、それらのほとんどすべてに規模壮大な館が築かれていて、花輪線の鉄道沿線からこれを望むと、方台状あるいは方壇状の館址が墨墨として偉観を呈している」と述べている。

【近世】

中世鹿角に築城された館跡は「館潰し」によってその機能を失い、廃絶した。しかし花輪館(34)、柏崎館(27)はその機能をほとんど失わず、南部藩の代官所が江戸末期まで置かれた。毛馬内地区は鹿角街道(南部街道)、来満街道、濁川街道が合流するところで交通の要所でもあったことから毛馬内通代官所が柏崎館跡に、また、花輪館には尾去沢金山との関連から花輪通代官所が置かれた。毛馬内・花輪地区には江戸期の町並みの区割りが随所に見られ、毛馬内地区の柏崎館の眼下には武家屋敷の面影が、花輪新田町の町外れには「枡形」が残されている。(藤井安正)